

実施計画書(普通科改革支援事業)

令和4年4月28日

支出負担行為担当官

文部科学省初等中等教育局長 殿

(受託者) 住 所 兵庫県神戸市中央区下山手通

5-10-1

名称及び 兵庫県教育委員会

代表者名 教育長 藤原 俊平

令和4年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」に関する実施計画書を以下のとおり提出いたします。

記

1 事業の概要

(1) 学際領域学科又は地域社会学科を設置する学校名・設置(予定)年度

公立・私立・国立・株立の別	学校名 (ふりがな)	学科の種類	設置(予定)年度	決定
公立	兵庫県立柏原高等学校 (ひょうごけんりつつかい はらこうとうがっこう)	地域社会学科	令和6年度	○

※学科の種類は学際領域学科又は地域社会学科の別を記載すること。

※設置(予定)年度は令和4年度、令和5年度又は令和6年度を記載すること。

※教育委員会等における決定を終えている等、組織として設置が決定している場合には、「決定」欄に○を付すこと。

(2) 学校の詳細

課程別	新学科の 収容定員	学年制・ 単位制の別	学科の名称(決定している場合)
全日制	40×3	学年制	

※課程別は、全日制・定時制・通信制の別を記載すること。

(既存の学科を転換する場合は、以下も記載)

現在の生徒数	現在の学科の種類	現在の学科の名称

(3) 当該学科における特色・魅力ある先進的な教育の取組について

現在の取組みと改編後の科目名称

	知の探究コース→地域探究科	普通科一般クラス
1年	探究Ⅰ(1)→丹BALⅠ(1)	丹BALⅠ(1)
2年	探究Ⅱ(2)→丹BALⅡ(2)	丹BALⅡ(1)
3年	丹BALⅢ(2)	総合Ⅲ(1)
	グローバル・(仮)自分探究・(仮)地域探究(選択各2)	

()は単位数

【探究の基礎・基本】1年次「丹BALⅠ」

探究対象を身近な地域社会の課題にしぼり、地域の抱える課題、魅力を探究し、気づきを発信・共有する。

「地域の魅力をおさそ分け」と題して、地域で活躍している15名の方や教員の得意とする学習をテーマに、今日的な課題や地域社会のニーズ等を知り、自らの興味あるテーマを探す授業。

【探究活動の地域実践】2年次「丹BALⅡ」

テーマの変更を認め、「地域課題の探究(1年の継続)」に加え、研究の切り口として「自分探究(自分が最も関心がある地域社会を支える人材:教育、看護医療、公務員、起業している方等が、地域社会にどのように働きかけ、社会が形成されているか学び深める活動)」につながるテーマを研究する。自分が研究する目的を明確にし、地域をフィールドに1年時の探究活動を深める。中学校やオープン・ハイスクールで地域の後輩と学びを共有し、協働する人材育成に携わる。2学期以降は、台湾修学旅行(沖縄)に向けて、事前学習を兼ねて台湾研究を行う。

治平高級中学、台南第一高級中学など海外で暮らす同年代の若者とオンラインで交流する。自己紹介、学校紹介地域の紹介を互いに行うことで、2者間における差異の気づき、差異を生む背景の考察など比較研究に必要なモノの見方、考え方を獲得する。リサーチフェスタ、マイプロジェクトアワード、グローバルサミット等、研究報告を公表し、今後の課題の明確化と学びの深化を目指す。

【学びの深化】3年次 学校設定科目「グローバル」

2年の探究をさらに継続・発展させたい生徒が、選択できる科目として設置する。英語によるプレゼンテーション、ディスカッションに対応できる技能を磨き、海外の高校生(台湾、韓国、カンボジア等)とオンラインで情報発信、意見交換をして学びを深める。海外及び全国のグローバル型の高校とオンラインで結び、グローバルサミットを開催。ポストコロナに何ができるかの提言をまとめる。

「地域課題から世界を考える日」(全校発表会)

総合的な探究の時間、「丹BALⅠ」「丹BALⅡ」「探究Ⅱ」「グローバル」でまとめた探究活動の成果を発表する。オンラインで発信する。

今後、地域人材育成のための探究活動、「地域探究(仮)」地域づくり、魅力発信、ふるさと教育をテーマに新たな科目を設定する。知の探究コースにおける探究の名称を普通科と同様の「丹BAL」と名称変更し、学校全体の学びの共通項として位置づけ、地域探究学科では、学びの質の向上とさらなる教科横断的な学びの体系化を図る。

2 事業の目的等

(1) 学際領域学科又は地域社会学科を設置する高等学校を取り巻く状況の分析、学際領域学科又は地域社会学科を設置する必要性

本校の所在する丹波地域は、現在少子高齢化、過疎化、医師不足、基幹産業である農業の衰退、森林の放置、それを遠因とした土砂災害の発生、農作物への鳥獣被害など様々な今日的課題を抱えている。

一方、丹波地域には、豊かな自然や景観、歴史、あるいは丹波大納言小豆や黒大豆など、日本を代表する農作物や、世界的にも珍しい恐竜の卵化石が発掘された大きな話題となった地層（丹波篠山層群）など、世界に誇るべき地域財産を有している。

本校は、地域の進学校として、125年の歴史があり、卒業生も4万人を超え、多くの人材を世界に輩出してきた。最大2000人を超える生徒が学び、丹波地域はもろろん、世界各国で活躍している。しかしながら、少子高齢化の影響は大きく、最大1学年12クラス規模から5クラス規模へと生徒が半分以下に激減し、丹波地域の人口も減少傾向にある。

一方で、丹波市では、世界ブランドの農作物等の地域資源に魅力を感じ、丹波地域への移住者数は、令和2年度には225人と前年度から100人も移住者が増加している。新たなビジネスを展開している方や自分らしい生き方を求めている方などの多様な価値観が共存している。

平成20年に本校は学校の特色であった「普通科理数コース」を文系対応も可能な「知の探究コース」として改編、探究活動を教育課程の中に盛り込み学校の特色化を図ってきた。本校が探究活動で培ってきた、地域との協働した学びは、生徒の主体的な学びの場となり、学校が活性化する源として、本校の中心的な活動として現在まで牽引してきた。

具体例をあげると、新型コロナウイルス感染症が拡大するなかで、実施した教育活動は以下となる。感染拡大を防止しながらの取組ではあったが、地域の方から多くの喜びの声が聞かれた。

【具体的な取組】令和2年度実績

- ・地域資源である丹波竜や丹波布に関わりの深い偉人等の魅力発信のための方策提案
- ・丹波三宝を題材にフィールドワーク等の実践的な学びを展開
- ・車いすユーザー用和原市街めぐり観光マップの日本語版・英語版の作成
- ・西山酒造場（丹波市市島）から商品開発を学ぶアントレプレナーシップ
- ・移住相談をオンラインで実施

この度のパンデミック以外にも、急速なグローバル化やICTをはじめとする技術の進展や少子高齢化の影響等、ますます変化が激しく予測困難な時代を迎えている中で、社会の変化に柔軟に対応し、自らの力で新しい社会を切り拓く力を育成する高等学校であるために、地域との協働による高等学校教育改革推進事業により実施した研究開発を継続し、発展させる必要がある。これからも、丹波市が、豊かに生きることができる地域であり続けるために、高校生が中心となり、地球規模の視点に立った地域課題・魅力に着目し、地域社会の伝統的な発展や価値の創出に資する資質能力を育成していく。

そのために、現コースの培ってきた学びの進歩系として、本質的な協働と個人の行動を重視した新学科「知の探究科」(仮称)として、「多様な価値観を共有する人材育成」を目標に、丹波地域をフィールドとした、地球規模で活躍する人材を育むことが本校の使命であると考えられる。

(2) 学際領域学科又は地域社会学科における取組の目的・目標（学際領域学科又は地域社会学科における教育を通じて育成を目指す資質・能力を含む）

① 柏原高校のめざす生徒像

- ・主体的に物事にチャレンジする生徒
- ・多様な価値観を理解し、協働する生徒
- ・地域の課題解決に寄与する生徒

② 取組の目的・目標

- ・地域課題を理解し、地域活性化や課題解決に向け積極的に関わることのできる資質能力を養う。
- ・他地域との比較や、世界的な課題との関連を探る活動を通じて多様な価値観を理解できる資質・能力を養う。
- ・生活体験や地域での学び、交流から、他者と自分の差異に気づき、差異を生かす方法を考えることができる資質・能力を養う。

③ 育成を目指す資質・能力

コア教科・科目「丹BAL」で課題解決型学習を推進し以下の力(例)を育成する。

	丹BAL I	丹BAL II	丹BAL III
地域理解力	◎		
発案力	◎		
実践力		◎	
関係構築力	○	◎	
表現力	○	◎	◎
チャレンジ精神		○	◎
リーダー性		○	◎

※新学科準備として、コーディネートを中心に教員や地域の方と育成したい能力を検討する。

- 想定する内容
 - ・地域理解力：主体性・好奇心・創造力など
 - ・発案力：分析力・考察力・企画力など
 - ・関係構築力：発信力・巻き込み力など

④ カリキュラムマネジメント

コア科目を中心とした各教科の学びの設計において以下の内容を実践する。

- (特に育むべき資質・能力)
 - ・答えが一つとは限らない問いに対し、自ら解を求める思考力、判断力、表現力等の能力
 - ・主体性を持って多様な人と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）

(年次連行)

- 1年次 課題と設定と分析 2年次 解決策のための立案と実行
- 3年次 キャリア形成へのさらなる行動

(課題解決型学習の設計)

- 教育目標からの目指す資質・能力の設定→評価の目的と方法の設定→授業計画の作成→授業案の作成と授業の実施方法の検討→授業関係者の役割の明確化
- 学校の教育活動全体を見据え、これらの内容を教員間で互いに確認できる、対話を重視したシステムを構築する。

3 実施体制

(1) 管理機関における実施体制や事業の管理方法

- ①校内組織の改編
 - ・コーディネーターを校務分掌に位置づけ、組織としての役割を明確化
 - ・校内の教育活動全体に向けたコーディネーターの関与を充実
 - ・職員会議等において、事業内容に関する情報を共有化
- ②普通科新学科学科設置検討委員会の設置
 - ・普通科新学科学科設置に向けた準備委員会を校内に立ち上げ、コーディネーターを含む委員により、組織的に改編を推進
- ③運営指導委員会の開催
 - ・運営指導委員会を年間3回以上開催し、専門的な知見を有する大学関係者や企業関係者、自治体関係者、地域NPO等の委員から助言を受けながら、校内の教育活動に対して進行管理、評価、指導を実施
 - ・委員会の構成員である県教育委員会事務局から、県全体の施策等を踏まえた指導助言の実施
- ④コンソーシアム運営委員会の開催
 - ・コンソーシアム連絡会を定期的に開催し、カリキュラムについて、各専門分野の立場から必要な助言を与え、協働体制を構築
 - ・探究活動に関する情報やデータの提供や、フィールドワークやインタビューシンプ等の体験的な学びやICTを活用した海外との交流の機会を提供
 - ・カリキュラムの実施にあたって、必要に応じて、人的、物的な支援を展開
 - ・実行されたカリキュラムの成果に関する定期的な報告を受け、必要な助言を付与
 - ・普通科専門学科としての特色ある教育課程の推進のため、各種分野において優れた知識・技能を有する社会人等を 学校設定教科・科目、総合的な探究の時間等の講師として活用する 特別非常勤講師を配置
 - ・本県知事部局の国際交流課・国際経済課等との協力のもと、指定校と国内の大学や企業、海外の教育機関との連携強化や、本県SSH指定校等で組織する「兵庫『咲いたテク』事業推進委員会」との連携を推進する事業の支援・拡大及び成果の普及を展開

※①～④を関連付けることにより期待される相乗効果

・探究活動は、専門的かつ広範囲的な内容を伴うことから、従来の高等学校の教育環境のみでは効果的な実施が困難な状況であるが、多方面の専門家や組織が、事業実施校の教育目標や実施内容に関する情報を共有することにより、人的支援及び物的支援を受けやすくなり、内容の深い学びを機能的に実現する可能性が高まる。

・生徒が個々に発案して進める探究活動を、校内の様々な場面で公開していくことにより、生徒の課題意識が社会全体の課題とリンクしやすくなり、より大きな支援等を得た教育活動となり得る可能性が高まる。

(2) 管理機関における事業全体の成果検証、評価のための体制、考え方

【事業評価の体制】

- ①運営指導委員会での検証
 - ・高校教育課長をはじめ、担当指導主事による継続的な評価及び指導
 - ・外部委員等による、客観的な視点からの継続的な評価
 - ・大学教授等の有識者による、学術的な視点からの継続的な評価
- ②コンソーシアムでの検証
 - ・高校教育課長をはじめ、担当指導主事による継続的な関与及び助言
 - ・コンソーシアム構成員による、多角的な視野からの評価
 - ・校内の教職員及び生徒による、計画的な自己評価
- ③「普通科新学科学科設置準備委員会（仮称）」での検証
 - ・普通科新学科学科設置を指す高等学校を構成員とする委員会での相互評価
 - ・指導主事による各校の成果に関する相対的な評価
- ④兵庫県教育基本計画（兵庫県教育基本計画）に基づく年度末評価の実施
 - ・「ひょうご教育創造プラン（兵庫県教育基本計画）」に基づく年度末評価の実施

【事業評価の考え方・観点】

- ①スキル・ポリシーの適切な設定
 - ・生徒に身につけさせざるを得ない資質・能力の明確化
 - ・資質・能力を育成するために必要な教育課程に関する方針の明確化
 - ・入学時に期待される生徒像の明確化
- ②育成するべき資質・能力に関する評価方法の適切な設定
 - ・生徒の目標に対する到達度（ポートフォリオ、ルーブリック等）
 - ・生徒の興味・関心・意欲等に関する教職員の理解度
 - ・生徒や教職員、協働者に関するコーディネーターの理解度
- ③3年間を通じた体系的なカリキュラムの設定
 - ・教育目標に則した教科横断的で体系的なカリキュラムの設定
 - ・学校設定教科を軸とした、探究活動中心のカリキュラムの設定
- ④ICT等を活用した授業設定
 - ・BYODをはじめとする情報端末機器を有効に活用した授業の展開
 - ・急激な社会変化等に影響を受けにくい学習環境の構築
- ⑤コーディネーターの有効な活用方法の検証
 - ・コーディネーターの得意分野を生かした学校組織での活用
 - ・コーディネーターによる研究機関や地域社会との接続点の増加
 - ・コーディネーターを軸とする学校内外の協働体制の構築
 - ・コーディネーターの関与によるワークライフバランスの組織的な担保

【具体的な評価指標（例）】

【具体的魅力・特色を高校選択の理由にした生徒の割合

【第3期ひょうご教育創造プラン指標】

区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標
実績			見込	目標	【年度】
目標	82%	83%	84%	85%	86%
実績(見込)	81.0%	82.5%	79.3%	(85%)	【R5年度】

(3) 学際領域学科又は地域社会学科を設置する高等学校における専業の管理方法

- ① 校内組織の改編
 - ・ コーディネーターを校務分掌に位置づけ、組織としての役割を明確化
 - ・ 校内の教育活動全体に関するコーディネーターの関与を充実
 - ・ 職員会議等において、事業内容に関する情報を共有化
 - ② 普通科新学科設置検討委員会の設置
 - ・ 普通科新学科設置に向けた準備委員会を校内に立ち上げ、コーディネーターを含む委員により、組織的に改編を推進
 - ③ 運営指導委員会の開催
 - ・ 運営指導委員会を年間3回以上開催し、専門的な知見を有する大学関係者や企業関係者や自治体関係者、地域 NPO 等の委員から助言を受けながら、校内の教育活動に対して進行管理、評価、指導を実施
 - ・ 委員会の構成員である県教育委員会事務局から、県全体の施策等を踏まえた指導助言の実施
 - ④ コンソーシアム運営委員会の開催
 - ・ コンソーシアム連絡会を定期的に開催し、カリキュラムについて、各専門分野の立場から必要な助言を与え、協働体制を構築
 - ・ 探究活動に関する情報やデータの提供や、フィールドワークやインターンシップ等の体験的な学びや ICT を活用した海外との交流の機会を提供
 - ・ カリキュラムの実施にあたって、必要に応じて、人的、物的な支援を展開
 - ・ 実行されたカリキュラムの成果に関する定期的な報告を受け、必要な助言を付与
- ※①～④を関連付けることにより期待される相乗効果
- ・ 探究活動は、専門的かつ広範囲的な内容を伴うことから、従来の高等学校の教育環境のみでは効果的な実施が困難な状況であるが、多方面の専門家や組織が、事業実施校の教育目標や実施内容に関する情報を共有することにより、人的支援及び物的支援を受けやすくなり、内容の深い学びを機能的に実現する可能性が高まる。
 - ・ 生徒が個々に発案して進める探究活動を、校内外の様々な場面で公開していくことにより、生徒の課題意識が社会全体の課題とリンクしやすくなり、より大きな支援等を得た教育活動となり得る可能性が高まる。

(4) 管理機関及び申請校における研究開発の実績（申請校が新設校の場合、管理機関における実績のみを記載）

〔管理機関における研究開発の実績〕			
学校名	指定年度	指定機関	研究主題
神戸	平成16～令和4年度		スーパーサイエンスハイスクール
尾崎小田	平成17～令和元年度		将来の国際的な科学技術関係人材を育成するために、先進的
宝塚北	令和元～5年度		心理教育を推進する高等学校等を指定し、理数系教育
三田洋雲館	平成21～令和3年度		者に関する教育課程等に關する研究開発（実践的な研究を含む。）を行う。
明石北	平成22～令和3年度		
加古川東	平成18～令和3年度		
小野	令和元～5年度		
龍野	平成25～令和4年度		
豊岡	平成18～令和3年度	文部科学省	
姫路西	平成26～平成30年度		スーパーグローバルハイスクール
兵庫	平成27～令和元年度		グローバルな社会課題を発見、解決できる人材やグローバルな
伊丹	平成27～令和元年度		ビジネスで活躍できる人材育成するため、質の高いカリキュラムの開発・実践を行う。
国分	平成27～令和元年度		
生野	令和元～3年度		地域との協働による高等学校教育改革推進事業
柏原	令和元～3年度		市町村・高等教育機関・産業界等との協働によるコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組を行う。
村岡	令和2～4年度		

〔申請校（兵庫県立柏原高等学校）における研究開発の実績〕

平成26年4月～平成31年3月
 スーパーグローバルハイスクールアソシエイト校に指定
 平成30年4月 ひょうごスーパーハイハイスクール指定
 平成31年4月～令和4年3月
 文部科学省「地域との協働による教育改革推進事業（グローバル型）指定

(5) 運営指導委員会の体制

所属	氏名	主な実績
兵庫県立人と自然の博物館館長	中瀬 勲	学識経験者
関西学院大学 フェロー	高畑 由起夫	学校教育に専門的知識を有する
福知山公立大学 教授	杉岡 秀紀	〃
丹波市観光協会 会長	柳川 拓三	関係機関の責任者
丹波市企画総務部総合政策課政策係長	荻野 雅文	関係行政機関の職員
兵庫県教育委員会高校教育課課長	新谷 浩一	管理機関

(6) 運営指導委員会が取り組む内容

年間3回程度運営委員会を開催し、各委員の専門性を生かして、令和4・5年度は、新学科設置に向けたカリキュラム開発、コーディネーターを中心とした校内の体制整備、コンソーシアムの構築や連携、中学校等への周知・広報等の進捗状況、中学校等への広報活動等について助言を行う。令和6年度は、学科の設置年度となるため、入学生の状況等を把握し、カリキュラムの実施や関係機関との連携の深化等について、具体的な助言を行う。また、学校内外の継続的な連携・協働構築に向けての具体的な提案を行う。

4 学際領域学科又は地域社会学科における取組

(1) 学際領域学科又は地域社会学科におけるカリキュラムや教育方法等の特色・魅力ある先進的な教育の内容(学校設定教科・科目の詳細は別添1「学校設定教科・科目の設定に関する説明資料」に記載。)

1年「丹BAL I」

国内外の地域の課題をテーマに設定する。まずは、丹波地域の抱える課題、魅力等について探究を進め、地域の魅力について理解を促す。

「地域の魅力をおすすめ分け」と題して、コンソーシアムや卒業生等の協力を得て、地域や丹波を応援し活躍している方を講師として招喚する。また、学問分野として教員の教科専門性を活かす授業も展開し、生徒への様々な情報提供を行う。

2年「丹BAL II」

1学年で学んだ内容で、自らの興味ある内容を班選択する。テーマの変更を認め、地域課題の探究(1年の継続)や「自分探究(地域人材の育成、教育、看護医療、公務員、起業等をテーマに探究)」の大テーマから小テーマに展開し、その調査研究のためにコンソーシアムや卒業生等とつながり、実社会で活躍している方と授業展開を行う。

(想定される具体的な学びの内容)

- ・台湾の学生と本校生徒の地域課題を調査研究
- ・移住者とともにアントレプレナーシップについて調査研究
- ・外国人移住者が住みやすい地域にするための調査研究
- ・日本のアニメの海外における受容に関する比較調査
- ・丹波市の財政調査
- ・ブータンと丹波市の幸福度の比較調査 等

3年「丹BAL III」

1年次2年次の課題解決型学習により、自らの将来設計(キャリア)に位置づけた学びの展開を行う。主体的な学びの推進のために、生徒が希望する分野の班設定を行い、学校設定科目等で補完的な学びを展開する。

(想定される具体的な学びの内容)

- ・海外の高校生(台湾、韓国、カンボジア等)と地域課題をテーマに協働研究
- ・移住外国人との共生するためのイベント企画
- ・グローバルサミットの企画運営
- ・丹波の3高校が地域を活性化させるための人の絆を数値化する研究
- ・丹波の農作物をドバイで売れるのか
- ・総理大臣になるための方法
- ・丹波市から宇宙ロケットを飛ばす実験 等

3年選択科目

- 「自分探究(仮)」 キャリアデザインのための探究活動
- 「地域探究(仮)」 地域活性化策の提案(オール丹波構想) 地域づくり
- 「グローバル」 海外訪問やオンラインによる相互の課題の解決策を実践

学びの集大成発表の場として「地域課題から世界を考える日」

総合的な探究の時間、「丹BAL」「探究II」「グローバル」等でもとめた探究活動の成果を発表する。オンライン等で発信する。

(2) コンソーシアム等の関係機関等との連携・協力体制の構築の考え方・方法

これまでの探究活動からの協力体制を発展させる。新学科では生徒の興味ある課題に対して、持続可能な取組とするためにコンソーシアムやOBのつながりを活かした協働体制の構築を目指す。

- ① 生徒の教育活動の支援体制
 - 生徒が探究活動を進めるにあたり、地域の状況や課題、情報共有、講演会、フィールドワークの対応などで協力、支援する。また、課題解決型学習時に解決するための専門家や組織等につなげ、協働した取組により解決できる体制を目指す。
 - (自治体・商工会・観光協会等)
 - ・丹波市の姉妹都市(米国ワシントン州ケンネディ市・オーバン市)との高校生地域活性化会議及び交換留学の実施
 - ・各機関からの研究テーマに関する情報、データ等の提供(海外の大学、高校、NPOとのコンソーシアム)
 - ・国際交流の推進、観光振興に関する研究
 - ・ICTを活用した共同研究 など
- ② 地域探究の教育活動が持続可能な体制
 - 地域活性化の視点を共通項とし、関係者の利益を尊重した持続可能な体制を作る。
 - ・自治体の地域活性化政策や地域おこし協力隊等の継続的な人的支援の検討
 - ・企業の社会貢献事業(CSR)等の人的物的支援の検討
 - ・実践活動を生徒自らで実現する方法の提案(クラウドファウンディング等)など会議を定期的にも実施し、新学科設立までに方向性を明確化する。

(3) コンソーシアムの構成員

所属	氏名	主な実績
丹波市	林 時彦	丹波市長 講演会(ようこそ先輩)
丹波市教育委員会	片山 則昭	丹波市教育長
丹波県民局	今井 良広	丹波県民局長
丹波市商工会議所	大地	会頭
丹波市観光協会	柳川 拓三	会長
丹波医療センター	秋田 穂東	院長
丹波市国際交流協会	山口 直樹	会長
福知山立大学	杉岡 秀紀	教授
地元 NPO 団体	未定	未定
兵庫県教育委員会	新谷 浩一	高校教育課長

(4) 配置するコーディネーターの属性や役割

所属	氏名
NPO 法人 imagine 丹波	鴻谷 佳彦
丹波市民活動支援センター	一宮 祐輔

当該者の主な実績

- NPO 法人 imagine 丹波 鴻谷 佳彦
 - ・文部科学省での運営指導委員
 - ・探究活動における特別非常勤講師(県内4校実績)
- 丹波市民活動支援センター 一宮 祐輔
 - ・探究活動における特別非常勤講師
 - ・丹波三高校によるモンブランプロジェクトの支援活動コーディネーター

コーディネーターが取り組む内容(勤務形態を含む)

1 年目	<p>学校職員やコンソーシアム等の地域関係者との関係づくりを優先に令和6年度の新学科設置に向けた準備ならびにコーディネーターの役割を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地域や学校の抱える課題の言語化、可視化、共有化 ② コアとなるチームの編成 ③ 推進体制づくりの原案づくり ④ 丹 BAL を中心とした教科科目の参画授業を試験的に実施し、教科間連携を強化する。
2 年目	<p>1 年目の課題を解決する。学校内での意思決定を促し、先生方の主体性を高める仕組みを実践する。特に丹 BAL II から丹 BAL III の授業体制・設計を中心としたカリキュラムマネジメントを教員とともに作り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 校務分掌の再編成 ② コアとなるチームの編成から学校全体に対話を拡大(教員研修等) ③ 関係機関との細かな調整 ④ 学校外での学びの醸成を推進
3 年目	<p>新学科の設置 コーディネーターの役割が明確化 仕組みと文化づくり</p> <p>今年度は非常勤とするが、今後は学校に常駐して、教員とともに関係機関との調整、授業において教員、生徒の支援を行う。また、学校内外の協働体制を設計する中心となる。</p>

5 実施計画
 (1) 3ヶ年の実施計画の概要

<p>1年目</p> <p>現行の内容について、継続実施。</p> <p>①1年生については、新たなテキストや講演会等により探究の手法を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による丹波の魅力再発見 自治体の施策を学ぶ（地域を知る） ・地域の魅力や課題の中から、自分の興味あるテーマを設定し、フィールドワーク等の活動から探究を深めていく。 <p>②2年次の探究活動を、前半は1年次からの継続で地域活性化策のまとめ(地域を深め創る)、後半を台湾(沖縄)研究として、テーマを防災、観光、平和等に設定し探究を進める。自治体の対応の違いを比較する。また、地域課題や自己の将来に向けて研究を進める。</p> <p>③学校設定科目の研究「(仮)自分探究」「(仮)地域探究」「(仮)グローバル」を設定。新たな科目設定であるので、新学科設置検討委員会(仮)により現在の教科の授業との関連をどのような形で行うか、また、総合的な探究の時間や、LHR等で行っている内容とも関連させ、実施する時間を適切に設定できるように研究する。</p> <p>また、カリキュラム開発について、コンソーシアムである大学、県教育委員会等との連携し、指導助言を受ける。学校行事(オープン・ハイスクール、修学旅行、進路探究 WEBK、インターンシップ、地域人材養成セミナーなど)との関連もはかり事前事後の学習につながるよう探究学習をプログラムする。</p>	<p>2年目</p> <p>①2年次で全クラスが2単位の探究活動を実施。これまで週1時間の細切れであった授業を2時間続かしたことで、フィールドワーク、講演会などを適切に計画、実施する。また、LHRの時間と続きにして、課題研究、レポート作成、フィールドワーク、講演会、発表会等が実施しやすい形にする。</p> <p>②学校設定科目「(仮)自分探究」「(仮)地域探究(地理探究)」「(仮)グローバル」の試行</p> <p>③県教育委員会へ学校設定科目の届出</p>
<p>3年目</p> <p>①1年次より「地域探究科」スタート</p> <p>②関係機関の連携協力による新たなカリキュラム(初年度：1年生)の実施</p> <p>③新たなカリキュラム実施(2年生・3年生)に向けての校内体制の準備</p>	<p>3年目 新学科設置初年度</p>

(5) 学際領域学科又は地域社会学科の設置及び設置に向けた検討に関する生徒、保護者、地域等への説明の実施

<p>地域社会学科の設置は令和6年度であるため、以下の広報活動を令和5年度に行なう。</p> <p>①学科の教育内容をまとめた広報用リーフレットとポスターの作成 中学生や保護者、地域の方に対して、教育活動や行事等を整理し紹介する。また、同時に教育活動に関わっていただけたらという理解を促す。 ポスターの掲示には、学区内の駅やスーパー、公民館、商業施設等の多くの方に周知できる場所を選定して掲示する</p> <p>②オープン・ハイスクール等(中学生、保護者、地域への広報) 年間3回実施 第1回 7月 中学校訪問 生徒が出身中学校へ出向き、現在行っている探究活動の実践を発表する。あわせて、学校紹介を行う。 第2回 8月 オープン・ハイスクール・知の探究コース説明会 生徒が主体となって進行する。学校紹介、探究活動等、高校の学びについてパネルディスカッション、国際交流について、先輩と語るなどを企画し、学校を紹介する。生徒が説明する。 第3回 11月 秋のオープン・ハイスクール、進学相談会 生徒が主体となって進行する。学校紹介、探究活動の紹介、高校生と語ろう(進学相談)を行う。</p> <p>③スマートフォン向けWEBページの作成 今後の教育活動を紹介できるようなサイトとして業者委託をする。</p> <p>④学校関係者への説明 3月 入学者説明会(新入生、保護者への説明) 4月 PTA総会での説明(保護者への説明) 6月 中高連絡会(中学校教員への高校説明) 8月 学校評議員会 9月 学校説明会(中学生、保護者、中学教員への高校説明)</p> <p>⑤発表会での説明 12月 グローバルサミット(関係校、地域、保護者にも公開) 1月 地域課題から世界を考える日(校内発表会を保護者、地域にも公開)</p>
--

(3) 事業の進捗状況の定期的な確認や改善の仕組み（事業のアウトプットやアウトカムの考
え方、目標指標の設定は別添2「目標設定シート」に記載。）

事業の内容	
月	事業の内容
5月	カリキュラムや教育方法等の開発 関係機関等との連携・協力体制の構築 探究学習ガイダンス 授業公開週間（探究的な学びの研究） 職員研修会（ICT活用について） 情報教育研修課、教育企画課等
6月	学校設定科目「グローバル」によるオンライン交流 海外交流アトバイザー 福知山公立大学、関西学院大学等
7月	ようこそ先輩講演会 出身中学プレゼンテーション 看護師養成セミナー・運営指導委員会 職員研修会（学校設定科目研究） 同窓会の支援、協力 丹波市、丹波篠山市教育委員会、中学校 丹波医療センター、市役所
8月	オープン・ハイスクールでのブレゼン インターンシップ フィールドワーク 研修合宿 地元企業、観光協会、商工会議所等 丹波市・丹波篠山市教育委員会、 小中学校、子育て支援センター 地元企業、観光協会、商工会議所等 海外交流関係校、国際交流協会
9月	文化発表会 探究活動成果発表（教科別、部活動） 進路探究 WEBK 卒業生による講演、模擬授業 大学、短大、専門学校、企業等 （卒業生による講義、講演、模擬授業等） 海外交流関係校
10月	台湾、韓国（沖繩）オンライン交流 リサーチフェスタ（甲南大） 海外交流関係校
11月	秋のオープン・ハイスクール 台湾修学旅行（沖繩修学旅行） 関係中学校、教育委員会等 海外交流関係校
12月	地域防災・観光施策の比較研究 探究中間発表会（学年ごと） グローバルサミット 関係機関の特別非常勤講師 地域探究に取り組み全国の高校及び海 外交流高校等 コンソーシアム各代表 者
1月	地域課題から世界を考える日 運営指導委員会 コンソーシアム各代表者
2月	探究発表会（県内外他校） （オンライン発表会も含む） 発表会実施校
3月	ローカルキャリア養成セミナー 教員養成インターンシップ 看護師養成セミナー ようこそ先輩講演会 管内小中学校、市教育委員会 丹波医療センター 同窓会

年3回程度計画している運営指導委員会、コンソーシアム運営委員会において事業の進捗状況を確認する。その中で改善策を検討する。オンライン等も適切に活用して、確認できるようにする。

①生徒の成長の視点

グループ内での発表、学年での発表、発表会等において、課題へ取り組みや視野の広まりが見られたか、また、生徒が発表する場が適切に設定されているかどうかを評価する。最終的に、地域課題の解決に積極的に取り組みたいと思うようになったかどうか、多様な価値観を持った人と関わって、学びたいと思うようになったかどうかなど生徒の変容を評価する。また、地域における探究的な学びを活かした進路実現がなされているかを評価する必要がある。

②教員の資質向上

探究活動を効果的に進めるためには、コーディネーターの力を借りながら、教員自身の指導力の向上が図られなければならない。教科会、職員研修会等において、確認できるようにする。

週1回の探究担当者会議、月1回の新学科準備委員会、教育課程委員会により進捗状況を確認しコーディネーターとともに事業の共通理解や調整ができるようになる。

③外部機関との連携

大学や関係機関との連携が適切に展開しているかをみる。特に、研究授業や発表会を適切に実施し、オンライン等も有効に活用して助言をいただく。コーディネーターにアドバースをもらいながら、一方の過度な負担にならず持続可能な形になっているかどうかという視点も持つ。

④中学生、保護者の視点

新たな学科が、生徒の成長、学校の発展につながり、柏原高校で学びたい、学びたいという魅力あるものになっているかどうかを評価する。
中学校での説明会、オープン・ハイスクール等でのアンケート結果やWEBページを活用した仕組みを検討する。

⑤カリキュラムマネジメントの視点

探究の授業だけで事業が完結するわけではない。学校の教育活動が効果的、機能的に連携しないと一部の教員の負担となる。その連携が図れているかをみる。学校全体が、新学科設置に向けての動きに想いを一致させていくことが必要である。将来的には、コーディネーターの視点を学校経営機能と融合できる仕組みを検討する。

6 成果の普及のための仕組み

○成果普及のための方策

- ①全国フォーラムでの発表
- ②県教委主催の各種研修会での先行事例として報告
- ③地域住民、保護者、中学生への広報、発表会等の活動
 - ・ホームページへの掲載
 - ・学校だより、探究通信(仮称)の発行
 - ・探究活動発表会
 - ・オープン・ハイスクール、出身中学校でのプレゼンテーション
 - ・「グローバルサミット」
 - ・「地域課題から世界を考える日」
- ④大学等が実施する発表会、研究会への参加
- ⑤県民局主催丹波地域ビジョン推進委員会への参加
- ⑥全国、世界で活躍する卒業生を巻き込み、事業への理解と協力体制の構築

7

国の指定終了後の取組継続のための仕組み

○コンソーシアムの継続的な連携が続く仕組みづくり

地域社会学科の特色ある学びを支えるのは、コンソーシアムを構築する機関等との継続的に連携が続く仕組みづくりである。国の指定期間内、それぞれの機関と更なる連携・協働を行い、学校内の学びから学校外での学びへと発展できる「地域全体の学び」となるよう更なる仕組みを構築する。

○コーディネーター機能の維持

指定期間後のコーディネーター機能の維持については、

- ①コーディネーター加配に関する予算の確保
- ②教員のコーディネーター機能の移行
- ③企業協力による人員配置 等

の方策を含めて、コーディネーターの望ましいあり方について指定期間中に検討し、方向性を決定する。

地元自治体の「地域おこし協力隊」が、コーディネーターとして市内の高等学校を連携して活動することも視野に入りたい。

8 事業経費 別添3のとおり

9 再委託の有無 有 ・ 〇 (どちらかに○。有の場合は別添4「再委託先所要経費」及び様式第4「再委託申請書」を提出すること)

10 添付資料

- ① 新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)申請書の概要(別添5)
 - ② 令和3年度及び令和4年度入学生の3年間の教育課程票を年度ごとに作成したのもの
- ※新設校の場合は令和4年度入学生のもののみご提出ください

11 管理機関の担当者

担当課・室	高校教育課	担当者	主任指導主事・藤木 作幸
電話(直通)	078-362-3817	職・氏名	
担当課メールアドレス		F A X	078-362-4288
			koukoukyouikuka@pref.hyogo.lg.jp

カリキュラム開発専門家

柏原高校のコーディネーターとして

鴻谷佳彦(NPO法人Image丹波 代表)

2015年に「ようこそ先輩」で「人生を大きく変えた修行時代～続けることが大事～」と題してお話しさせていただいて以来、毎年のように柏原高校に関わらせていただいておりますが、本年度9月よりコーディネーター(新学科に向けたカリキュラム開発専門家)として本校にさらに深く関わらせていただくことになりました。

職員室に机を用意していただき、週6時間勤務させていただいております。これまでの柏原高校の生徒を前に講演や授業の講師として接してきた印象も踏まえ、探究授業の仕組み作り为重点をおき活動しました。

探究授業として「生徒に求める力、理想とする生徒像」を明確にし、指導者間で共有する事が急務と感じています。それが整う事で目指すべき授業の姿がわかり継続した授業展開を進めていくことができます。1年生で展開されていた「市役所からのお話を聞き、そこから課題を探し各生徒が意見として発表していく」ことにおいて、重要となるポイントに絞る提案をさせていただきました。この展開で一番大事なことは「発表」ではなく、「市役所からのお話を、自分なりにどれだけ深く考える事ができるか?」という部分に重点を当てて授業を進めていただくアドバイスをいたしました。生徒自身の考えを深めることのできる「思考のプロセス」は実社会において、まさに求められる部分であり、今後正解のない混沌とした社会を生き抜いていく糧になると思っています。

2学期の途中からの契約と介入となったので、混乱もあったと思いますが、担当の先生の協力もあり「考えを深める授業」をすすめていく事ができました。

今後の取り組みとしての課題は、仕組み作りの肝となる「ルーブリック」作成です。柏原高校の全教員が望まれる「育てたい生徒像」を集約する為、プロトタイプ of ルーブリックを制作しています。これが完成したらいよいよカリキュラム制作にかかりたいと思います。『生徒の能力アップ』をとことん追求した柏原高校独自のカリキュラムを制作できればと思っています。柏原高校独自のカリキュラムの制作が必要だと感じています。皆様のお力添えよろしくお願いいたします。外部の関係者として「長期に続けて授業を見守れる存在」になる事を目標にしています。

探究学習の前提となる基礎的思考力	主体的に物事にチャレンジできる能力			多様な価値観を理解し協働できる能力					
	1	2	3						
探究学習の前提となる基礎的思考力	知識を高める力 (学習意欲の活用)	表現能力	論理的思考力	探究的思考力	社会的自立心	キャリア設計力	チャレンジする力	自主性・自律心・ 協調力	グローバルな力
探究学習の前提となる基礎的思考力	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)
探究学習の前提となる基礎的思考力	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)
探究学習の前提となる基礎的思考力	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)	探究の楽しさを伝える力 (学習意欲の活用)

新たにコーディネーターとなって

一宮 祐輔(丹波市市民活動支援センター)

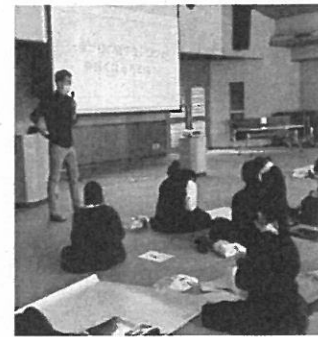
柏原高校には2020年度「丹BAL」の授業で、講師として参加したことに始まり、今年度9月よりコーディネーター(新学科に向けたカリキュラム開発専門家)として関わることになりました。丹波市市民プラザやカフェの運営、市民活動の実績などを活かし、「高校と地域を繋ぐこと」、「探究学習でアドバイスをすること」を役割として想定されていると思い、年度の途中から従事し始めました。

探究授業の中で1番関わった1年生普通コースでは、実際の授業などを見させてもらう中で、探究学習において土台となる知識や考え方の習熟度が、生徒によって差が大きいことがわかってきました。そこで場当たりのあつたものの、担当の先生方と相談し、全生徒を一同に集め、私自身が数回、講義することになりました。後期授業日程は、内容に対して十分な時間ではなかった様に思いますが、1月末に実施された『地域課題から世界を考える日』では、立派な発表をする生徒が多く、柏原高校生の発表に対するポテンシャルの高さを感じました。

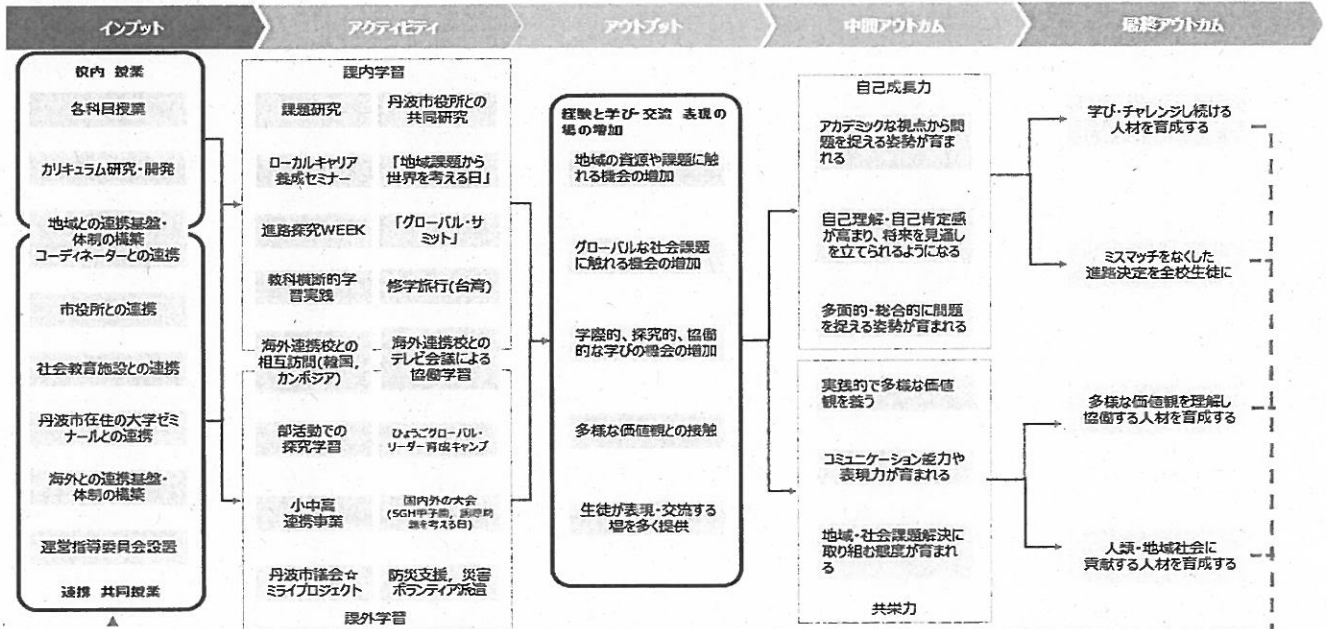
生徒の習熟度差を広げてしまう要因として、指導者側の共通認識不足が挙げられると思います。1月には全職員を対象に、校長、教頭と協力して新学科に向けた話し合いの場を持ちました。短時間、限定的な内容であったにも関わらず、出席者から「同じ方向を見ることが出来る貴重な場だった」といった感想が複数挙がりました。生徒の進捗に合わせて対応をせざるを得ない授業形式を取っている探究授業では、指導者側で情報を共有し、授業構成から個別の指導方針を統一する必要があります。教科授業を担当しつつ、定期的な打ち合わせは大きな負担となっているようでした。

前述の通り、生徒のポテンシャルは高く、発表に限らず、アイデア出しのワークの際などでも優れた結果を出す生徒がたくさんいることがわかりました。これは、小中学校からアクティブラーニングに慣れてきている若い世代の可能性を感じるばかりです。逆に、指導者側の授業の企画力を問われている現状のようにも感じ、指導者が最大限に能力を発揮できるためには、負担軽減が前提条件になるのではないのでしょうか。外部人材であるコーディネーターの起用は、労働力の総量を増やしている側面はあるものの、そのコーディネーターとの調整という新たな業務も生んでいることは否めません。現状の業務のスリム化が必須です。

コーディネーターとしては、我々の特性を理解し受け入れてもらった上で、主体的にコミュニケーションを計って、より良い学習環境の提供に寄与したいと思います。



ロジックモデル



職員意識調査

下記目的のもとで、職員を対象にした意識調査を行った。

本事業報告書にまとめるにあたって、職員に対する案内を12月8日(木)に行い、回答期限を1月31日(火)として実施した(回答期間55日間)。回答数は職員数41(アンケート作成に携わった教員は除く)に対し13(回答率31.7%)であった。

【目的】

柏原高校の教員の現時点での探究的な学習に関する意識を明らかにし、抱かれている不安の解消と、取り組まれている強みをさらに活かすための今後の研修に対する示唆を得ることを目的とした調査です。

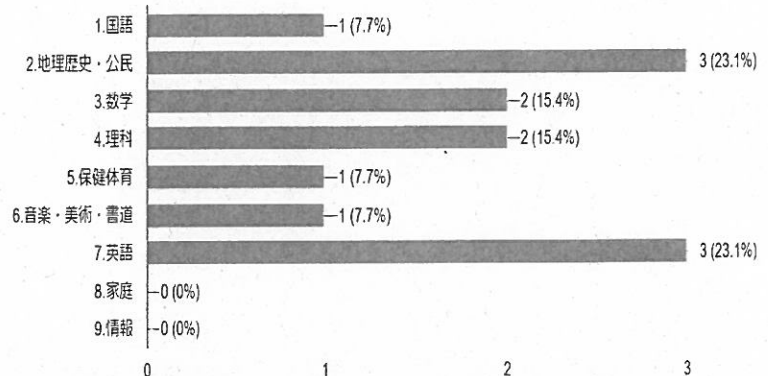
【特記事項】

- ・本アンケートは上記の「研究の目的」のもとに行うこととし、回答内容がそれ以外の目的で用いられることはありません。
- ・解答はすべて統計的に処理し、講評する結果においては個人が特定されることがないようにします。
- ・任意回答の項目に対して、回答を強いることはありません。無回答であっても不利益を被ることはありません。

それぞれの質問とそれに対する回答は次のとおり。

1. 主に担当している教科を1つ選択してください。

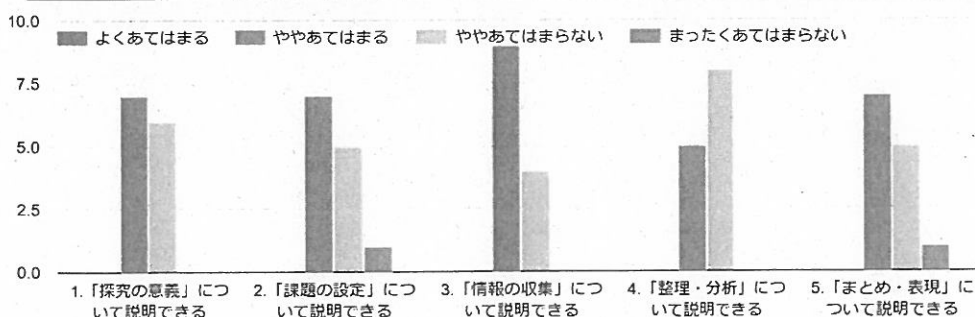
	選択肢	回答数	割合
1	国語	1	7.7%
2	地理歴史・公民	3	23.1%
3	数学	2	15.4%
4	理科	2	15.4%
5	保健体育	1	7.7%
6	音楽・美術・書道	1	7.7%
7	英語	3	23.1%
8	家庭	0	0.0%
9	情報	0	0.0%



2. 探究的な学習について伺います。次の内容について、それぞれ当てはまるものを選択してください。

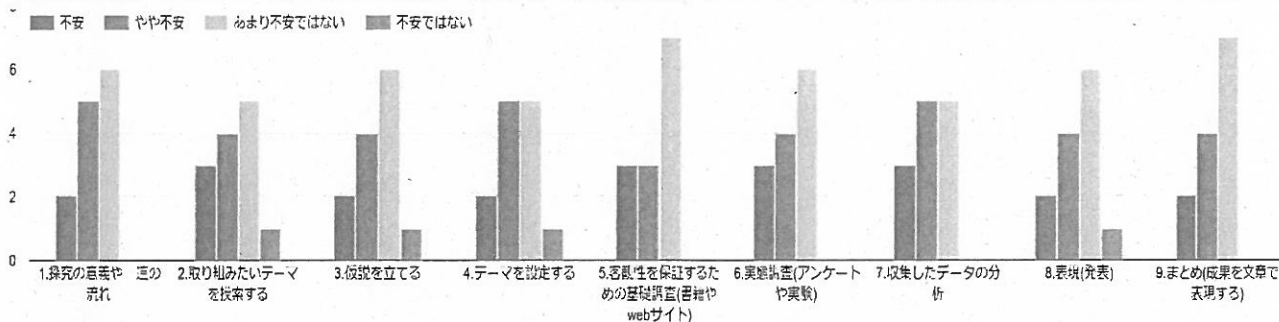
選択肢 ①よくあてはまる ②ややあてはまる ③ややあてはまらない ④まったくあてはまらない

設問	選択肢							
	①	②	③	④				
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1「探究の意義」について説明できる	0	0%	7	53.8%	6	46.2%	0	0.0%
2「課題の設定」について説明できる	0	0%	7	53.8%	5	38.5%	1	7.7%
3「情報の収集」について説明できる	0	0%	9	69.2%	4	30.8%	0	0.0%
4「整理・分析」について説明できる	0	0%	5	38.5%	8	61.5%	0	0.0%
5「まとめ・表現」について説明できる	0	0%	7	53.8%	5	38.5%	1	7.7%



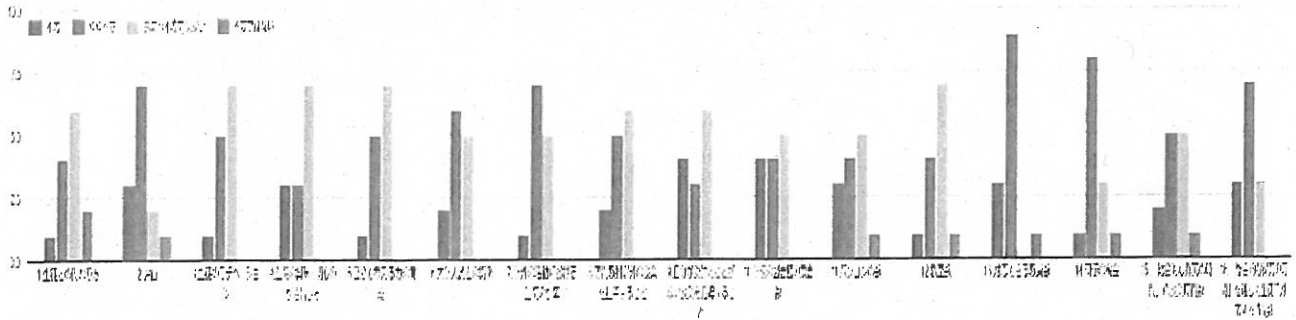
3.「総合的な探究の時間」を担当するにあたり、次のことに対する指導への不安はありますか。それぞれあてはまるものを選択してください。選択肢 ①不安 ②やや不安 ③あまり不安ではない ④不安ではない

設問	選択肢 ①		②		③		④	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 探究の意義や一連の流れ	2	15.4%	5	38.5%	6	46.2%	0	0.0%
2 取り組みたいテーマを摸索する	3	23.1%	4	30.8%	5	38.5%	1	7.7%
3 仮説を立てる	2	15.4%	4	30.8%	6	46.2%	1	7.7%
4 テーマを設定する	2	15.4%	5	38.5%	5	38.5%	1	7.7%
5 客観性を保証するための基礎調査(書籍やwebサイト)	3	23.1%	3	23.1%	7	53.8%	0	0.0%
6 実態調査(アンケートや実験)	3	23.1%	4	30.8%	6	46.2%	0	0.0%
7 収集したデータの分析	3	23.1%	5	38.5%	5	38.5%	0	0.0%
8 表現(発表)	2	15.4%	4	30.8%	6	46.2%	1	7.7%
9 まとめ(成果を文章で表現する)	2	15.4%	4	30.8%	7	53.8%	0	0.0%



4.「総合的な探究の時間」を担当するにあたり、次のことに対する指導への不安はありますか。それぞれあてはまるものを選択してください。選択肢 ①不安 ②やや不安 ③あまり不安ではない ④不安ではない

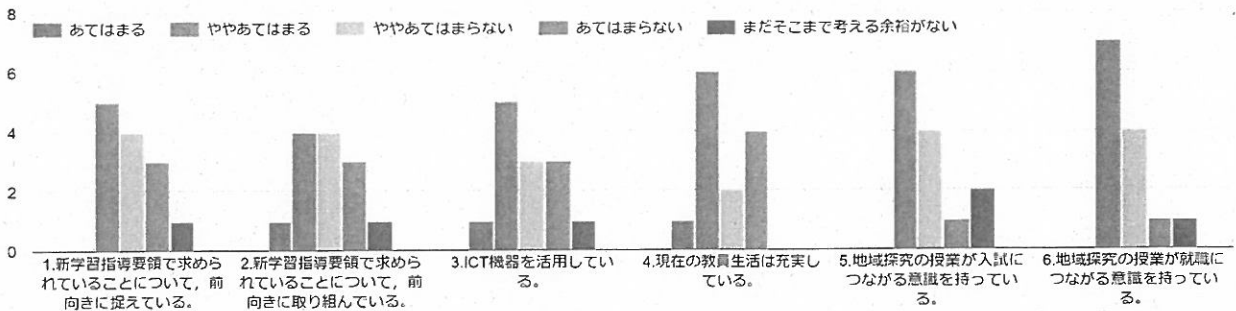
設問	選択肢 ①		②		③		④	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 生徒との関わり方	1	7.7%	4	30.8%	6	46.2%	2	15.4%
2 評価	3	23.1%	7	53.8%	2	15.4%	1	7.7%
3 生徒のモチベーション	1	7.7%	5	38.5%	7	53.8%	0	0.0%
4 生徒の興味・関心の引き出し方	3	23.1%	3	23.1%	7	53.8%	0	0.0%
5 自分で考える力の育成	1	7.7%	5	38.5%	7	53.8%	0	0.0%
6 大学入試との関係	2	15.4%	6	46.2%	5	38.5%	0	0.0%
7 学外の活動における生徒の引率	1	7.7%	7	53.8%	5	38.5%	0	0.0%
8 専門教科以外の授業を担当すること	2	15.4%	5	38.5%	6	46.2%	0	0.0%
9 自分が受けたことがない授業を指導すること	4	30.8%	3	23.1%	6	46.2%	0	0.0%
10 学校の図書館の蔵書数	4	30.8%	4	30.8%	5	38.5%	0	0.0%
11 パソコンの数	3	23.1%	4	30.8%	5	38.5%	1	7.7%
12 教室数	1	7.7%	4	30.8%	7	53.8%	1	7.7%
13 対応できる教員数	3	23.1%	9	69.2%	0	0.0%	1	7.7%
14 研修の機会	1	7.7%	8	61.5%	3	23.1%	1	7.7%
15 「総合的な探究の時間」の授業時間数	2	15.4%	5	38.5%	5	38.5%	1	7.7%
16 「総合的な探究の時間」を通して生徒に対応する時間数	3	23.1%	7	53.8%	3	23.1%	0	0.0%



5. 次の内容について、それぞれ当てはまるものを選択してください。

- 選択肢 ①あてはまる ②ややあてはまる ③ややあてはまらない ④あてはまらない
⑤まだそこまで考える余裕がない

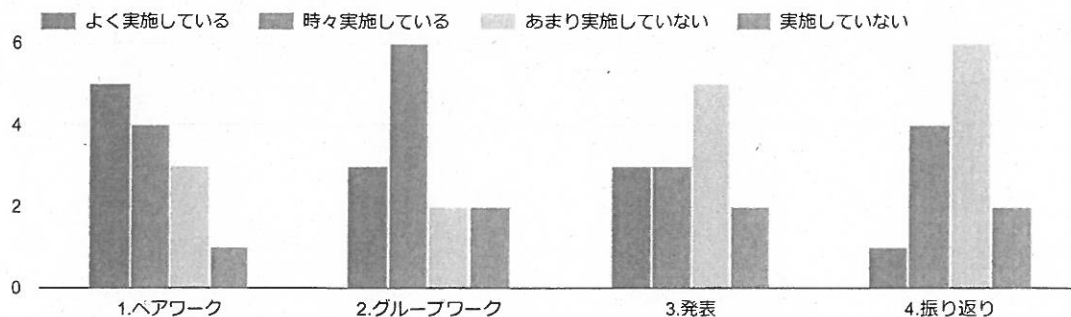
設問	選択肢 ①		②		③		④		⑤	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 新学習指導要領で求められていることについて、前向きに捉えている	0	0%	5	38.5%	4	30.8%	3	23.1%	1	7.7%
2 新学習指導要領で求められていることについて、前向きに取り組んでいる	1	8%	4	30.8%	4	30.8%	3	23.1%	1	7.7%
3 ICT機器を活用している	1	8%	5	38.5%	3	23.1%	3	23.1%	1	7.7%
4 現在の教員生活は充実している	1	8%	6	46.2%	2	15.4%	4	30.8%	0	0.0%
5 地域探究の授業が入試につながる意識を持っている	0	0%	6	46.2%	4	30.8%	1	7.7%	2	15.4%
6 地域探究の授業が就職につながる意識を持っている	0	0%	7	53.8%	4	30.8%	1	7.7%	1	7.7%



6. 担当されている教科において、次のことを生徒に対してどの程度実施していますか。それぞれ、当てはまるものを選択してください。

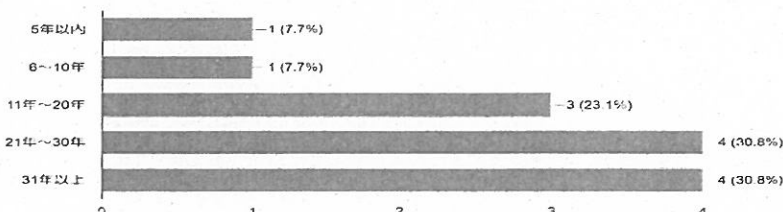
- 選択肢 ①よく実施している ②時々実施している ③あまり実施していない ④実施していない

設問	選択肢 ①		②		③		④	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 ペアワーク	5	0%	4	30.8%	3	23.1%	1	7.7%
2 グループワーク	3	23%	6	46.2%	2	15.4%	2	15.4%
3 発表	3	23%	3	23.1%	5	38.5%	2	15.4%
4 振り返り	1	8%	4	30.8%	6	46.2%	2	15.4%



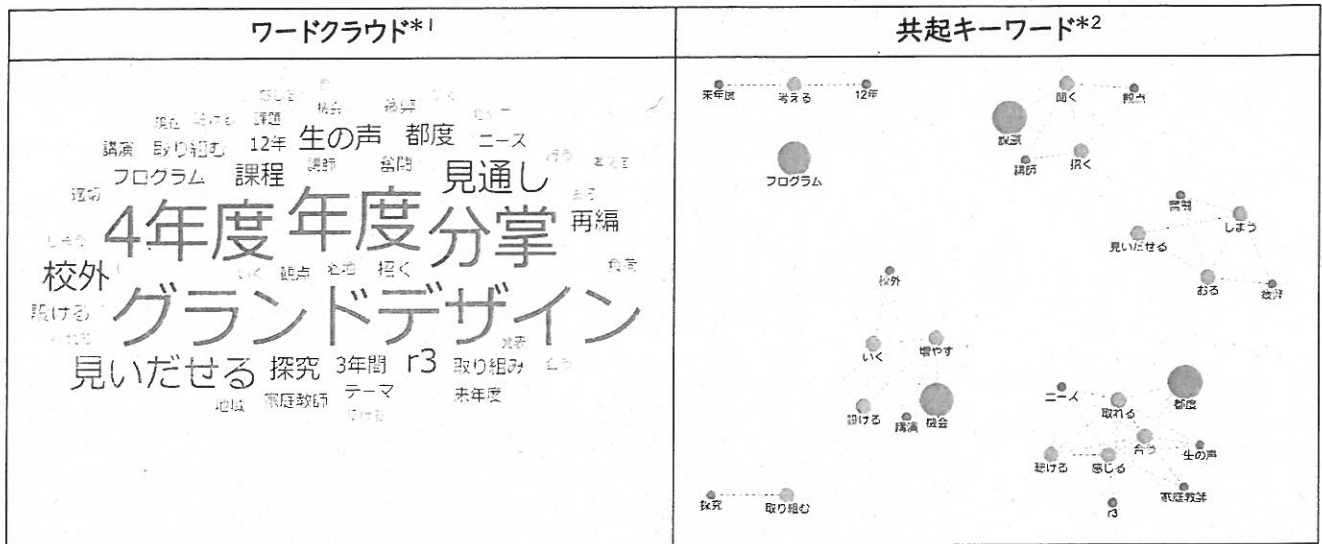
7. 教員経験年数(講師も含む)について、当てはまるものを1つ選択してください。

	選択肢	回答数	割合
1	5年以内	1	7.7%
2	6～10年	1	7.7%
3	11年～20年	3	23.1%
4	21年～30年	4	30.8%
5	31年以上	4	30.8%



8. 新学科に向けて 現在の【知の探究コース】の取り組みで、継続して取り組むべき点や改善した方がよいと思われることはありますか。どんな点が良く(悪く)、どのように改善すればよいでしょうか。生徒らや保護者等の実際の声などご自由に記入ください。

- ・特にありません
- ・グランドデザインが切実に必要です。現在の取り組みを新学科の3年間の課程にどう着地させるか見通しを頂けると幸いです。見通しの上で、12年が次年度行うプログラムと、来年度の新1年が3年間行うプログラムを具体化させるのが良いと考えます。見通しがないと、いま現場で奮闘しておられる先生方が意味を見いだせず疲弊してしまいます。また、一部の分掌に負荷が集中しています。次年度は適切な再編再配置が行われることを希望します。
- ・外部に発表する場があるのは良い
- ・自由テーマ設定、個人探究は、継続して取り組みたい。また、校外での発表の機会を増やすこと、いろいろな講演の機会を設けることをしていきたい。
- ・R4年度2学年を現在担当しています。地域からの講師を招いての授業、課題は年度当初から生徒がテーマについて決定していない状況で特に観点や課題意識がないままに話を聞いているため、すでに別なテーマで関心がある場合、タイムロスになる。R3年度のような家庭教師方式が取れると都度都度自分たちのニーズに合った、なおかつ地域の方の生の声が聴け良いと感じます。地域に出向いてのインタビューなど校外学習、今年度、夏休みに入る前に校外学習の計画があいまいなまま休業期間に入ったため、取り組みにバラつきがあったように思う。5W1Hなどある程度細かく決めて休業期間に入るのが良いと感じます。教師の中で3年間の全体像やカリキュラムをイメージ出来ていないところがあると感じます。1年ではこの能力、2年ではこの能力というように的を絞るのも一つでは。また、1年かけて磨いたアイデアや手に入れた情報も引き継ぐところがなく、実現する機会、継続して磨かれるチャンスがなく単年度で必ず終わるところにもったいなさを感じます。インターアクトなのか、生徒会なのか、もしくは全校での取り組みにするのか工夫してもよいのではと思います。ビブリオバトルのように対戦方式をとり、最優秀に輝いたアイデアについては表彰と実現に向けプロジェクトが進んでいくなど、生徒が探究活動の成果を実感できる仕組みがあると良いと思います。福知山公立大学の地域経営学部教授による出前授業、もしくはこちらが出向いて授業参観などが年度当初に出来ると教師も生徒もノウハウを吸収できるので感じた。
- ・深く、そこにエネルギーを注ぎ込み過ぎないことが大切

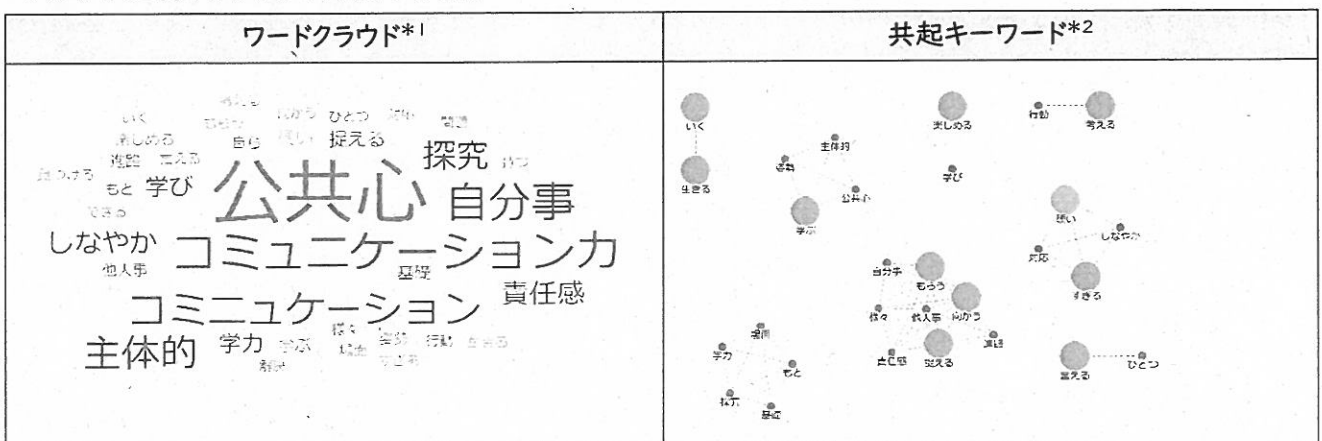


*1:スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさと色で図示したもの

*2:文章中に出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図

9.新学科に入学して3年間を学ぶ生徒らが、卒業時にどのような力を身に付けておいてもらいたいと思われま

- ・生きていく力
- ・コミュニケーション力
- ・私はこれをしたと言えることをひとつ持つこと
- ・学びを楽しめる力。自分からやりたいことを見つける力。コミュニケーション力。
- ・しっかりと考えて行動できる力
- ・自らの力で問題を解決しようとする力
- ・(どんな場面でも)探究する力・そのもとになる基礎学力
- ・主体的に学ぶ姿勢、公共心など。また、様々な問題を他人事ではなく自分事と捉えられる責任感を持ち進路に向かってもらいたい。
- ・しなやかに硬くなりすぎず対応できる力



*1:スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさと色で図示したもの

*2:文章中に出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図

本校生徒の生活実態・学習状況および意識や活動等に関する実態

兵庫県が行っている『高校生 生活実態・学習状況調査』および『生徒の意識や活動等に関するアンケート』から本校生の状況を明らかにする。

各調査による目的や質問項目およびそれらに対する本校の回答状況を以下にまとめる。

- この調査で得られたデータは、基礎的・基本的な知識や技能だけでなく、思考力、判断力、表現力や主体的に学習に取り組む態度等を含んだ、総体としての「学力」を育成する方策を研究・開発するために実施します。この目的以外には使用しません。
- それぞれの質問について、特に指示のある質問以外は、自分にあてはまるものや、自分の考えに一番近いものの一つを選んで、その番号を回答用紙に記してください。また、質問の意味や答え方が分からないときは、先生に質問してください。

『生徒の意識や活動等に関するアンケート』2023年1月実施

回答数 588(回答率 92.9%(1年 182(回答率 91.5%), 2年 191(回答率 97.9%), 3年 215(回答率 91.5%))

①本校入学後、地域活動や、ボランティア活動に参加したことがありますか。

選択肢	学年	1年		2年		3年		計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 参加した		27	14.8%	56	29.3%	74	34.4%	157	26.7%
2 参加したことがない		155	85.2%	135	70.7%	141	65.6%	431	73.3%

②ふるさと(自分が住んでいる地域や学校がある地域)の良さやすばらしさを感じますか。

選択肢	学年	1年		2年		3年		計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 感じている		150	82.4%	159	83.2%	172	80.0%	481	81.8%
2 感じていない		32	17.6%	32	16.8%	43	20.0%	107	18.2%

③将来、ふるさとに何らかの形で関わっていきたいと思いますか。

選択肢	学年	1年		2年		3年		計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 思っている		71	39.0%	76	39.8%	114	53.0%	261	44.4%
2 思っていない		111	61.0%	115	60.2%	101	47.0%	327	55.6%

④将来の生き方等について考え、実現するための努力をしていますか。(実現するための努力とは、教科の学習活動、資格取得、部活動、ボランティア活動、習い等の体験活動を含む)

選択肢	学年	1年		2年		3年		計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 している		133	73.1%	149	78.0%	162	75.3%	444	75.5%
2 していない		49	26.9%	42	22.0%	53	24.7%	144	24.5%

回答数は586(回答率92.6%(1年184(回答率92.5%), 2年176(回答率90.3%), 3年226(回答率96.2%)))

- (1) 1日にどのくらいの時間読書をしますか。(教科書や参考書, 漫画や雑誌は除きますが, 調べ学習のため読んだ専門書や新書, 電子書籍は含みます。土曜日, 日曜日は除いてください。)

選択肢	学年	1年		2年		3年		計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 全く、または、ほとんどしない		64	34.8%	56	31.8%	149	65.9%	269	45.9%
2 10分より少ない		53	28.8%	30	17.0%	29	12.8%	112	19.1%
3 10分以上30分未満		52	28.3%	68	38.6%	29	12.8%	149	25.4%
4 30分以上1時間未満		11	6.0%	13	7.4%	11	4.9%	35	6.0%
5 1時間以上		4	2.2%	9	5.1%	8	3.5%	21	3.6%

- (2) 土曜, 日曜や休日に, 1日にどのくらいの時間読書をしますか。(教科書や参考書, 漫画や雑誌は除きますが, 調べ学習のため読んだ専門書や新書, 電子書籍は含みます。)

選択肢	学年	1年		2年		3年		計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 全く、または、ほとんどしない		114	62.0%	114	64.8%	164	72.6%	392	66.9%
2 10分より少ない		21	11.4%	12	6.8%	17	7.5%	50	8.5%
3 10分以上30分未満		25	13.6%	20	11.4%	17	7.5%	62	10.6%
4 30分以上1時間未満		13	7.1%	12	6.8%	11	4.9%	36	6.1%
5 1時間以上		11	6.0%	18	10.2%	17	7.5%	46	7.8%

- (3) 1か月に何冊の本を読みますか。(1年間の平均で一つ選んでください。教科書や参考書, 漫画や雑誌は除きますが, 調べ学習のため読んだ専門書や新書, 電子書籍は含みます。)

選択肢	学年	1年		2年		3年		計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 全く読まない		58	31.5%	47	26.7%	131	58.0%	236	40.3%
2 1冊		85	46.2%	81	46.0%	56	24.8%	222	37.9%
3 2冊		20	10.9%	23	13.1%	20	8.8%	63	10.8%
4 3冊		11	6.0%	16	9.1%	7	3.1%	34	5.8%
5 4冊以上		10	5.4%	9	5.1%	12	5.3%	31	5.3%

- (4) 将来の夢や目標を持っていますか。

選択肢	学年	1年		2年		3年		計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 当てはまる		59	32.1%	56	31.8%	124	54.9%	239	40.8%
2 どちらかといえば当てはまる		86	46.7%	78	44.3%	55	24.3%	219	37.4%
3 どちらかといえば当てはまらない		21	11.4%	28	15.9%	27	11.9%	76	13.0%
4 当てはまらない		18	9.8%	14	8.0%	20	8.8%	52	8.9%

- (5) 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。

選択肢	学年	1年		2年		3年		計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 役に立つと思う		91	49.5%	90	51.1%	135	59.7%	316	53.9%
2 どちらかといえば、役に立つと思う		86	46.7%	77	43.8%	77	34.1%	240	41.0%
3 どちらかといえば、役に立たないと思う		5	2.7%	6	3.4%	10	4.4%	21	3.6%
4 役に立たないと思う		2	1.1%	3	1.7%	4	1.8%	9	1.5%

(6) 学級の生徒との間で話し合う学習活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。

	学年	1年		2年		3年		計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1	当てはまる	61	33.2%	61	34.7%	91	40.3%	213	36.3%
2	どちらかといえば当てはまる	106	57.6%	91	51.7%	100	44.2%	297	50.7%
3	どちらかといえば当てはまらない	12	6.5%	19	10.8%	20	8.8%	51	8.7%
4	当てはまらない	5	2.7%	3	1.7%	9	4.0%	17	2.9%
5	話し合う活動を行っていない	0	0.0%	2	1.1%	6	2.7%	8	1.4%

(7) 学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

	学年	1年		2年		3年		計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1	当てはまる	18	9.8%	25	14.2%	71	31.4%	114	19.5%
2	どちらかといえば当てはまる	101	54.9%	102	58.0%	120	53.1%	323	55.1%
3	どちらかといえば当てはまらない	55	29.9%	43	24.4%	30	13.3%	128	21.8%
4	当てはまらない	10	5.4%	6	3.4%	5	2.2%	21	3.6%

(8) 学校の授業がどの程度分かりますか。

	学年	1年		2年		3年		計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1	よく分かる	11	6.0%	13	7.4%	33	14.6%	57	9.7%
2	大体分かる	84	45.7%	94	53.4%	128	56.6%	306	52.2%
3	分かることと分からないことが半分 ずつくらいある	74	40.2%	66	37.5%	48	21.2%	188	32.1%
4	分からないことが多い	12	6.5%	3	1.7%	12	5.3%	27	4.6%
5	ほとんど分からない	3	1.6%	0	0.0%	5	2.2%	8	1.4%

(9) 学校の授業時間以外に、1日にだいたいどのくらい勉強しますか。(一つ選んでください。土曜日、日曜日は除いてください。学校の行き帰りや早朝・放課後の学習、塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含めてください。)

	学年	1年		2年		3年		計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1	全く、または、ほとんどしない	10	5.4%	15	8.5%	24	10.6%	49	8.4%
2	30分より少ない	33	17.9%	20	11.4%	16	7.1%	69	11.8%
3	30分以上1時間未満	66	35.9%	57	32.4%	28	12.4%	151	25.8%
4	1時間以上2時間未満	60	32.6%	49	27.8%	35	15.5%	144	24.6%
5	2時間以上3時間未満	10	5.4%	26	14.8%	24	10.6%	60	10.2%
6	3時間以上	5	2.7%	9	5.1%	99	43.8%	113	19.3%

(10) 将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いてみたいと思いますか。

	学年	1年		2年		3年		計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1	そう思う	24	13.0%	17	9.7%	57	25.2%	98	16.7%
2	どちらかといえばそう思う	33	17.9%	30	17.0%	49	21.7%	112	19.1%
3	どちらかといえばそう思わない	63	34.2%	61	34.7%	56	24.8%	180	30.7%
4	そう思わない	64	34.8%	68	38.6%	64	28.3%	196	33.4%

続いて、『高校生 生活実態・学習状況調査』の経年変化を掲載する。これにより、各年次や同一学年内での比較が可能になる。

表中の数値は、各年次による学年ごとの回答数に対する割合を表している。なお、質問項目が変更された場合は斜線で表記している。

(1) 1日にどのくらいの時間読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きますが、調べ学習のため読んだ専門書や新書、電子書籍は含みます。土曜日、日曜日は除いてください。)

選択肢	回生 学年	77回生			76回生			75回生			74回生		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 全く、または、ほとんどしない		34.8%			29.6%	31.8%		30.0%	29.9%	65.9%	31.1%	34.3%	58.6%
2 10分より少ない		28.8%			16.6%	17.0%		21.1%	26.1%	12.8%	23.6%	15.5%	14.0%
3 10分以上30分未満		28.3%			34.7%	38.6%		32.1%	32.5%	12.8%	28.8%	34.3%	14.0%
4 30分以上1時間未満		6.0%			11.1%	7.4%		11.0%	6.0%	4.9%	9.0%	8.5%	6.0%
5 1時間以上		2.2%			8.0%	5.1%		5.9%	5.6%	3.5%	7.5%	7.5%	7.4%

(2) 土曜、日曜や休日に、1日にどのくらいの時間読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きますが、調べ学習のため読んだ専門書や新書、電子書籍は含みます。)

選択肢	回生 学年	77回生			76回生			75回生			74回生		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 全く、または、ほとんどしない		62.0%			50.8%	64.8%		55.3%	66.7%	72.6%	55.7%	61.0%	65.6%
2 10分より少ない		11.4%			8.5%	6.8%		13.1%	9.8%	7.5%	14.6%	8.0%	7.9%
3 10分以上30分未満		13.6%			12.6%	11.4%		9.3%	9.4%	7.5%	12.7%	11.7%	11.6%
4 30分以上1時間未満		7.1%			13.6%	6.8%		12.2%	4.3%	4.9%	5.2%	8.9%	4.7%
5 1時間以上		6.0%			14.6%	10.2%		10.1%	9.8%	7.5%	11.8%	10.3%	10.2%

(3) 1か月に何冊の本を読みますか。(1年間の平均で一つ選んでください。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きますが、調べ学習のため読んだ専門書や新書、電子書籍は含みます。)

選択肢	回生 学年	77回生			76回生			75回生			74回生		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 全く読まない		31.5%			19.6%	26.7%		29.5%	36.3%	58.0%	26.9%	31.0%	56.7%
2 1冊		46.2%			45.7%	46.0%		39.7%	39.7%	24.8%	49.1%	41.8%	25.6%
3 2冊		10.9%			17.6%	13.1%		16.9%	10.7%	8.8%	12.7%	11.3%	8.8%
4 3冊		6.0%			8.5%	9.1%		5.9%	8.1%	3.1%	5.2%	7.5%	1.9%
5 4冊以上		5.4%			8.5%	5.1%		7.6%	5.1%	5.3%	5.7%	8.0%	7.0%

(4) 将来の夢や目標を持っていますか。

選択肢	回生 学年	77回生			76回生			75回生			74回生		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 当てはまる		32.1%				31.8%				54.9%			
2 どちらかといえば当てはまる		46.7%				44.3%				24.3%			
3 どちらかといえば当てはまらない		11.4%				15.9%				11.9%			
4 当てはまらない		9.8%				8.0%				8.8%			

※④世の中のいろいろなできごとを知ったり、情報を得たりするため、ふだん、行っていることは何ですか。

選択肢	回生 学年	77回生			76回生			75回生			74回生		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 テレビのニュース番組					73.4%			64.1%	61.5%		68.4%	59.6%	59.5%
2 新聞					12.6%			9.3%	7.7%		9.4%	7.5%	12.1%
3 インターネット					75.9%			74.3%	83.8%		72.6%	77.0%	76.7%
4 本や雑誌					7.5%			4.6%	2.1%		3.8%	2.8%	6.0%
5 特に何もしない					2.5%			4.6%	3.8%		5.7%	2.8%	4.2%

(5) 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。

選択肢	回生	77回生			76回生			75回生			74回生		
	学年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 当てはまる		49.5%			51.1%			59.7%					
2 どちらかといえば当てはまる		46.7%			43.8%			34.1%					
3 どちらかといえば当てはまらない		2.7%			3.4%			4.4%					
4 当てはまらない		1.1%			1.7%			1.8%					

※⑤勉強は大切だ。

選択肢	回生	77回生			76回生			75回生			74回生		
	学年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 そう思う					65.3%			63.3%	69.7%		76.9%	73.2%	85.1%
2 どちらかといえばそう思う					29.6%			28.7%	24.4%		17.9%	22.1%	12.6%
3 どちらかといえばそう思わない					1.5%			3.0%	3.0%		0.5%	3.3%	0.9%
4 そう思わない					1.0%			1.3%	0.4%		0.9%	0.9%	0.0%
5 わからない					2.5%			3.4%	2.6%		3.3%	0.5%	1.4%

(6) 学級の生徒との間で話し合う学習活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。

選択肢	回生	77回生			76回生			75回生			74回生		
	学年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 当てはまる		33.2%			34.7%			40.3%					
2 どちらかといえば当てはまる		57.6%			51.7%			44.2%					
3 どちらかといえば当てはまらない		6.5%			10.8%			8.8%					
4 当てはまらない		2.7%			1.7%			4.0%					
5 話し合う活動を行っていない		0.0%			1.1%			2.7%					

※⑥良い成績を取れるよう、勉強したい。

選択肢	回生	77回生			76回生			75回生			74回生		
	学年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 そう思う					63.8%			59.1%	61.1%		73.1%	69.0%	63.3%
2 どちらかといえばそう思う					29.6%			32.5%	32.9%		25.5%	24.4%	30.7%
3 どちらかといえばそう思わない					3.5%			2.5%	0.9%		0.0%	3.3%	2.3%
4 そう思わない					1.0%			3.4%	4.3%		0.5%	2.8%	2.8%
5 わからない					2.0%			2.1%	0.9%		0.9%	0.5%	0.9%

(7) 学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

選択肢	回生	77回生			76回生			75回生			74回生		
	学年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 当てはまる		9.8%			14.2%			31.4%					
2 どちらかといえば当てはまる		54.9%			58.0%			53.1%					
3 どちらかといえば当てはまらない		29.9%			24.4%			13.3%					
4 当てはまらない		5.4%			3.4%			2.2%					

※⑦入学試験や就職試験に役立つよう、勉強したい。

選択肢	回生	77回生			76回生			75回生			74回生		
	学年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 そう思う					72.9%			64.1%	75.2%		77.8%	76.5%	76.7%
2 どちらかといえばそう思う					19.6%			30.4%	19.7%		19.8%	20.2%	20.9%
3 どちらかといえばそう思わない					3.5%			1.3%	3.0%		0.5%	1.9%	0.9%
4 そう思わない					0.5%			1.3%	0.4%		0.5%	0.5%	0.5%
5 わからない					3.5%			2.5%	1.7%		1.4%	0.9%	0.9%

(8) 学校の授業がどの程度分かりますか。

選択肢	回生 学年	77回生			76回生			75回生			74回生		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 よくわかる		6.0%			10.6%	7.4%		5.5%	5.1%	14.6%	6.6%	6.6%	12.6%
2 大体わかる		45.7%			53.8%	53.4%		46.8%	55.6%	56.6%	43.9%	52.1%	60.5%
3 わかることとわからないことが 半分ずつぐらいある		40.2%			32.2%	37.5%		37.6%	31.6%	21.2%	43.4%	36.2%	24.2%
4 わからないことが多い		6.5%			2.0%	1.7%		7.6%	5.6%	5.3%	4.2%	4.7%	2.3%
5 ほとんどわからない		1.6%			1.5%	0.0%		1.7%	1.7%	2.2%	1.9%	0.5%	0.5%

(9) 学校の授業時間以外に、1日にだいたいどのくらい勉強しますか。(一つ選んでください。土曜日、日曜日は除いてください。学校の行き帰りや早朝・放課後の学習、塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含めてください。)

選択肢	回生 学年	77回生			76回生			75回生			74回生		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 全く、または、ほとんどしない		5.4%			9.5%	8.5%		13.9%	13.7%	10.6%	6.6%	8.9%	7.4%
2 30分より少ない		17.9%			15.6%	11.4%		11.8%	15.8%	7.1%	7.5%	5.6%	6.5%
3 30分以上1時間未満		35.9%			22.1%	32.4%		26.2%	17.1%	12.4%	23.1%	19.7%	11.2%
4 1時間以上2時間未満		32.6%			39.7%	27.8%		31.6%	33.8%	15.5%	41.0%	41.8%	17.7%
5 2時間以上3時間未満		5.4%			9.5%	14.8%		13.5%	17.5%	10.6%	19.8%	20.2%	15.3%
6 3時間以上		2.7%			3.5%	5.1%		1.7%	2.1%	43.8%	1.4%	3.8%	41.9%

(10) 将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いてみたいと思いますか。

選択肢	回生 学年	77回生			76回生			75回生			74回生		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 そう思う		13.0%			11.1%	9.7%		16.0%	17.9%	25.2%	17.0%	15.5%	19.1%
2 どちらかといえばそう思う		17.9%			17.6%	17.0%		23.2%	16.7%	21.7%	21.7%	17.4%	21.9%
3 どちらかといえばそう思わない		34.2%			31.7%	34.7%		23.6%	25.6%	24.8%	34.9%	33.3%	30.7%
4 そう思わない		34.8%			39.7%	38.6%		35.4%	39.7%	28.3%	25.0%	33.3%	28.4%